

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 10月 12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103940		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・亀山		
所在地	〒731-0231 広島県広島市安佐北区亀山五丁目9番13号 (電話) ① (082) 819-3255 ② (082) 814-3777		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103940-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年10月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で利用者が本人らしい生活が送れるように「ドライブに出掛けたい」「仕事がしたい」「〇〇が食べたい」などの希望にも柔軟に対応している。日々の生活の中から役割を持つ事、活躍できる場面、自己決定できる場面をできるだけ多く持つようにしている。利用者の声に耳を傾ける等、能力や状態に応じた自立支援に柔軟に対応できる体制にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

今までの生活に近い環境で、顔馴染みの人達との関わりを大事に、役割を持つ事で生きがいを感じて頂く支援をしている。その一つで中庭の畑の野菜作り(植え付け、水やり、肥料、収穫)と利用者が出来る事を役割として収穫の喜びに繋げ、収穫した野菜を使っての手作り料理で食べる事から意欲へ、出来る事を役割として生活の活力に繋がっている。職場全体の環境作りが整っていて、業務の中で気づいたその人に合ったケアの提案を職員全員で検討を行い、ケアプランに位置づけ維持・向上に向けて取り組み実践している。会議や面会が困難な中で、新たな発信方法を検討、コロナウイルス感染症終息後も関係性が継続出来るよう尽力している。

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所の理念を玄関に掲示してある。又、達成する為に、ホーム内の目標を決め実践できるように掲示しケアプランに反映させたり職員間の話し合いを設けている。	理念を玄関に掲示、出退社時、職員自らが意識確認を行い日々の業務に携わっている。年度ごとにスローガン、介護目標が設定され、職員が目標を持ち、目標達成に向け実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で地域交流は無くホーム内での活動に限られている。運営推進会議を通じて一部の方と電話などを通じて交流を持つことが出来ている。	ボランティアの訪問や近隣集会所で地域交流もあったが、コロナ禍で困難となり出来ていないが、運営推進会議を通じて地域包括支援センター、地域民生委員の方と電話や書面を通じて交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部の方の出入りも無くホームからの外出も無い、入居の相談は引き続き出来ている。雪の降る日に徘徊と思われる方に声掛けを行い警察及び、地域包括に繋げたケースもある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は書面で状況報告して個別に連絡を取りながら意見交換をし改善できるところはしている。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染症予防対策の為に、開催が困難である。書面にて行事報告、職員研修、苦情・事故報告など、意見交換を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ホーム内での事故・感染などが発生した場合の報告及び運営推進会議の案内と議事録の送付を行っている。地域包括センターとの連絡も密に取り協力関係が築けるよう努めている。認知症の進行により経口摂取が困難になられた方の相談も頂いた。	運営推進会議の案内や議事録を送付し意見を頂いたり、利用する際の申請手続きや細かな相談など地域包括支援センターとの協力体制が密に築けるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や外部研修の都度、身体拘束防止の勉強会の場を設け、職員間でも共通の意識を持ち取り組んでいる。単独外出などの事故を未然に防ぐことができるよう入口にはセンサーを設けているが、3ヶ月毎の身体拘束委員会を開催し防止、改善に努めている。	広島市開催の「高齢者虐待防止研修会」参加や身体拘束防止委員会、内外外部勉強会を通じて知識を深め、情報共有し防止・改善に努めている。言葉による拘束も利用者に配慮した声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を2ユニットで行なうことにより、第三者としての意見を交換でき、ユニット内でも注意したり職員を交代したり防止に努めている。グレーゾーンについても改善できるところは無いか話し合いを設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議・外部研修にて勉強会を行い、学んでいる。現在、成年後見人制度を利用されている方は居られないが、必要性に応じて関係者との話し合いを行い支援に努め、パンフレットも玄関に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族・本人の不安や疑問点を尋ね、次の施設の申し込みや、書類を取り揃える等、介護保険の区分変更を行いスムーズな退去に向けて話し合いを持っている。契約時には書面に書かれていない例えで、解りやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には来所時や電話にて意見等聞けるよう努め、利用者様とは日々のコミュニケーションの中で反映させている。年に一度のご家族アンケートに意見できるスペースを設けている。運営推進会議でも意見を頂けるように個別で連絡を取っている。	電話、窓越しの面会、ウェブ面会やひなたぼっこ便りで行事予定、利用者、職員のコメント、家族アンケートで意見を聞く機会を設け、意見や要望の把握に努めている。情報内容を基に職員で話し合い運営や支援の向上に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	連絡ノートや職員会議、また時間のある時に個人的に話を聞く機会を持ち、反映させている。意見があった場合には、上司に報告している。	職員会議にて、業務内容を再検討し、ケアの充実に繋がった例や、一目で把握しやすい体調管理表を作成し活用している。また飲み込みの状態に合わせて食事形態など日頃から職員間で話し合っている。管理者は、個人的に意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトの偏りや業務マニュアルの変更を行い、協力を得ながら働きやすい職場環境を目指している。また、職員の資格取得に向けた支援や、目的意識を持つよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で研修に参加する機会は減っているが、必要であれば勤務体制を調えるよう考慮している。また、毎月の職員会議に相互の内部研修を行うようにしている。経験のある職員に対しても、指導職員を配置するなど分からないところは、すぐにでも聞ける、学習できる機会を持つことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	訪問看護ステーションを通じてスライディングボードを使用した移乗方法など研修を開催して、士気向上に努めている。新型コロナワクチン接種もキャンセルが出た場合声をかけていただき、接種することもできた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配ごとなど考慮しながら、信頼関係を築くようにしている。また、家族の思いについても考慮している。職員間で情報交換しあう時こんな事を言っていたなどもらさず関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の希望や不安などに添えるよう十分な時間を取り、いつでも話せる機会を設け、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前には本人と家族の面談を行いアセスメントをし必要とされるサービスを取り入れ、時には地域サービス等のインフォーマルサービスの利用も検討することもある。現在は制限がある為行なっていないサービスもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段の生活の中で、利用者に教えてもらうことも多く、本人の出来ることを活かしながら、自立を尊重し共に支えあい関係を築いている。入居者・職員で話し合いながら野菜の収穫、草花の管理をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換、また相談等を密にし、職員に出来ること、家族にしか出来ないことを話し合いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在は電話での交流のみで窓越しの面会、ウェブでの面会で支援させていただいている。	コロナ禍で馴染みの人や場との関係継続支援が困難な中で電話、窓越しの面会、ウェブ面会やテレビの旅番組、ビデオ鑑賞、コロナ感染予防で面会が難しい中、ご家族からの電話の回数が増えて家族との関係性が密になるなど、継続支援に繋がるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が話し相手となり孤立しないよう、席の配置、食事作りや作品作り、ソファを利用し利用者同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期的には少ないが、電話を通じての情報交流が出来ている方もある。地域のケアマネさんを通じて経過を尋ねることこともある。相談があれば早く対応している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションを通して、希望や意見にできるだけ添えるように努めている。困難な方は、家族に相談する、生活歴などを参考にし対応している。職員間でも話し合いを持ち意見交換し、本人本位に対応している。	毎日の生活リズムや会話の中から意向や思いを把握、記録、職員間で情報共有し、利用者の目線に立ち、その日に出来る事、出来ない事を検討し、利用者、一人ひとりの思いに寄り添う支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴などを考慮、本人や家族に確認を行い、記録に残すなどして状況把握し、継続した環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者それぞれの状態、状況を常に意識して職員間で情報共有し、確認、把握に努めている。又、記録に残すようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会議で本人の希望、家族の意見・相談を基に話し合い、現状維持または、向上できるようにアセスメント・モニタリングを繰り返し介護計画の作成を行っている。	本人・家族の意向が、目標、サービス内容に活かされた介護計画書を作成し、担当職員によるモニタリングや職員会議にてケアカンファレンスを行っている。利用者の思いとケアのあり方を話し合い、具体的なプラン作成に繋げ、日常生活動作が向上した例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者ごとの個別記録に、気づきや本人の主張など記入し、職員間で共有している。また、それに基づき意見交換をし介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現在コロナ禍により外部との交流が出来なくなっている為、地域交流が出来ていない。外部との交流が出来ようになれば、サービス提供していく予定。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在コロナ禍により地域資源の利用が出来ていない。ホームにある畑を利用したりレクを工夫したり出来る範囲での楽しみのある生活が送れるよう支援している。現在は、訪問看護、訪問歯科、訪問美容のサービスは継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続を希望される方はご家族に受診対応をお願いし、ホームでの状況を報告している。変更される方は紹介状をお願いしたりまた、専門医への受診もすることがある。	今までのかかりつけ医継続希望の利用者は家族対応で、受診の際、体調と生活状況がわかる物を持参し、受診後は家族からの報告を受け、情報共有している。事業所協力医の往診や訪問看護は月2回あり、適切な医療が受けられるよう支援している。治療が必要な方は訪問歯科を実地している。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員として看護師を配置し、出勤時に健康管理等を行い、介護職員も日々の状態を報告、早目に受診し適切な治療が受けられるように支援している。月に4回の訪問看護によるサービスも導入している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療関係者との情報交換や相談・継続的な支援の必要性を話し合い、退院後の生活がスムーズに出来るように連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合を想定し、家族に早い段階から話し合いを行っている。その意見をもとに、主治医や看護師、職員と今後の対策については、本人にとって最良の結末を迎えられるようにカンファレンスを開き支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の在り方など説明、話し合い、その時々状態に応じて、利用者の思いと家族の意向を尊重し、主治医を交えた話し合いにより、適切な対応に心掛け、利用者にとって最良の最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルに沿って対応の仕方を職員会議などで全職員に発信、定期的に救命講習を受け実践につなげている。判断に迷った場合にも主治医・看護師・管理者に連絡をとるなどし対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホーム職員利用者様による年2回以上の避難訓練実施している。地域の大掛かりな避難訓練はコロナ禍で中止となった。災害時持ち出し品は、玄関先に準備し置いているが必要な物はその限りではない。	日中、夜間帯を想定した火災訓練や風土水害に対する避難研修を行うなど、災害訓練を定期的実施している。又、災害時に備えて、緊急時持ち出し品として、食品類、日用品、応急処置のバンドエイドなど、ユニットごとに準備している。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーを配慮した声かけや対応などを行っている。また、記録などの確認をし、定期的に指導を行っている。	利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや、排泄に関する記録も利用者に関心を持った指導で共有の意識を持ち、対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれの状態や能力に応じ、可能な限り自己決定の支援を行っている。また、意思表示が困難な方は、表情などを細かく観察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の行事の参加の声掛けを行い、その日の体調や気分によって、選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪は外部の方をお願いできる時は希望通りのカットをお願いしている。洋服は希望を聞きながら支援し、汚れたり、濡れたりした時にはその都度更衣している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を利用者と一緒に考えることがあり、買物や調理、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。また、行事・誕生日には工夫を凝らした料理やお酒を出し、楽しんでいただいている。時には外にテーブルを出して食事を楽しむことがある。	ユニット毎に献立を考え、行事食や冷蔵庫の中にある物、事業所の畑で収穫した(じゃが芋、玉葱等)が献立の一品に加えられている。おせち・恵方巻・そうめん、時には弁当、お寿司、敬老の日にはノンアルコールが提供される等食を通じて楽しみに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	野菜を中心とした食事を提供している。体重の増減や栄養状態、医師の指示に基づき個別に量も調整している。嚥下状態に合わせ、ミキサー食や刻み食を提供し水分にはトロミを加えたり、ゼリーにしたり形態を変えて摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声かけをし、困難な方には介助を行い清潔保持に努めている。毎日入れ歯の消毒も実施しました、訪問歯科の指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	本人の状態や状況に応じて排泄パターンを理解し、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。また、本人に応じた排泄用品を検討している。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、利用者に適した排泄用品の種類を検討し、水分、乳製品など献立に加えられ、声掛け、誘導により(夜間のポータブルを含め)トイレに座っての排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため、水分や乳製品、繊維質の食材を献立に取り入れている。また、歩行運動や腹部マッサージを実施し、自然な排便ができるよう食後にはトイレに行く習慣をつけている。便秘気味の方には、排便確認表で管理を行い、服薬等で調整することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	予め予定を立てているが、希望する回数や時間など、体制の可能な限り対応できるように配慮している。	週2~3回午後浴であるが、利用者のペースに添って支援をしている。安全面で手すりや浴室、脱衣所の温度管理や同性介助など、気持ち良く入浴出来るよう配慮した支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>居室の環境整備、室温管理を行 い、足浴の実施や、日中の活動 量を増やすなどの工夫をしてい る。体調によっては早めに休ん でいただくこともありますし、 お昼寝などされる方もいらっしゃ います。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬ファイルがあり、変更、服 薬時など確認を行っている。状 態も常に把握し、不明な点など あれば、主治医や薬剤師に相 談、また指導を受けるように している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>食事作りや畑仕事、手芸、作 品作りなど、それぞれの得意分 野を見つけ、役割を持って行 えるよう支援している。また、 本人の希望に沿って支援を行 っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	<p>外出に制限がある中で、希望 に添えていない。欲しい物など ある時はご家族にお願いして いる。</p>	<p>コロナ禍で外出が困難な中、 畑での野菜作り、芋ほり、干 し柿作り、デッキに出るの談 話やおやつ会食、紅葉の葉っぱ をあつめての作品作りなど、 事業所内で楽しむ事ができる 支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>お金の管理の出来る方は持 っておられるが、外出に制限 があるので、欲しい物はご家 族にお願いしたり、職員が購 入している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に合わせて、定期的に電話したり、ご家族から連絡があった場合、電話の取次ぎをしたりお届け物は本人に開封して頂いている。年賀状の書ける方は職員が支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日々の清掃・消毒を行い時には、芳香剤を使用したり、季節に合った飾りつけ、展示物、模様替えなど、利用者と一緒に工夫し行うことで、居心地のいい空間を作っている。入浴時には脱衣場の温度調節を行っている。</p>	<p>季節の花や飾り付け、利用者の書初めの習字などを展示している。テレビ、テーブル、ソファ一席が設置された談話室で昔の歌謡曲を聴くなど思い出や安らぎの空間で過ごしている。空調管理や机に個々に工夫されたついたてを置くなど、感染症対策も図っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間では気の合う方との席の配置、談話室にはソファを設け、テレビ鑑賞など思い思いに利用されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人・家族と相談の上、今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具や食器などを持ってきていただいている。また、本人の好みの装飾品などを置き工夫している。</p>	<p>居室にはベット、カーテン、エアコンを設置している。利用者が使い慣れた物品や慣れ親しんだ家具、家族の写真などを持参している。家具の配置も動線上に配慮し、スムーズに移動でき居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者の状態に合わせた椅子やテーブル、手すりなどを設置し移動がスムーズに出来る様になっている。また、状態に応じて目印などで対応している。</p>		

V アウトカム項目(亀山①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を玄関に掲示している。職員は出勤時に確認を行なっている。また理念達成に向け具体的な目標を立て職員全体や個々人で話し合いを行い実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理により、ボランティアなど地域との繋がりや交流が難しく、実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年も中学生の職場体験の話があったが、新型コロナの影響での予防・リスク管理により中止となり、実習の受け入れも出来ず地域への発信は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため、集まった開催は出来ず紙面での報告を行ない、後日電話にて意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	季刊誌を定期的に送付している。また、ホーム内での事故・感染等が発生した場合の報告を行っている。地域包括支援センターとの連絡も取り合い、協力関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため、外部の研修参加やひなたぼっこ全体での研修も行えていない。ホーム内での身体拘束防止委員会は実施しており、ケアの中で身体拘束にあたる行為やグレーゾーン、不適切なケアはないか見直し、職員会議の時に検討したり研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため、外部の研修参加やひなたぼっこ全体での研修も行えていない。ホーム内では職員会議の際に虐待防止研修を実施し、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため外部研修の参加は行なっていない。職員会議の際には学ぶ機会を作っている。現在、成年後見を利用している利用者はいないが過去、利用された事例があり、制度利用が必要と思われる方には、紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとり、詳しく説明を行い家族の同意を得るようにしている。不安や疑問等について確認を行い、その場で説明できない内容はいつでも確認が出来るように対応している。家族等が十分理解、納得してから契約を行なうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン作成時に利用者・家族に意見や要望を確認し反映させ作成している。その他にも報告や相談時にも意見や要望等聞く機会を作り、その内容を職員会議時や随時報告にて意見等話し合い、運営やケアの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回での職員会議で意見を聞くようにしている。必要があれば会議以外でも意見を求めるようにしている。意見を聞く際に個人的に言いたそうなことである時は、一対一で聞くなど話しやすい場を作るようにしている。意見は随時報告・連絡を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ホームとして面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けているが、運営の方での職員に対する勤務の状況の把握や評価・反映はあまり感じられない。資格取得支援の制度はあるが、その制度を使用し資格取得を目指す職員は少ない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため外部研修も参加やひなたぼっこ全体での内部研修は行えていない。リモートでの研修に抵抗ある職員もおり、リモートの研修機会も少ない。ホーム内で虐待防止研修や身体拘束防止委員会を行ない、ケアの方法や内容等を職員全体や個々人と共有し、技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため、同業者との交流は行えていない。運営推進会議の際に、民生委員の方や地域包括の方に他事業所の内容を聞くことはあり、取り入れられる内容は活かせるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談を行っているが新型コロナの影響での予防・リスク管理短時間での本人の状態把握になっていたが、家族やケアマネ等電話での不安や要望等の確認を行ない、情報を収集をしている。また、体験入居を行ない本人の思いや不安なことを聞き、安心してもらえるよう説明や声掛け、ケア等対応をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため面会制限があり、対面にて話をする機会は最小限となっているが、電話での連絡を重ね、家族の希望や不安などを確認するようにしている。いつでも連絡・相談できるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族、利用者の状況等を十分に確認し、必要であれば他のサービスを紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の気持ちに配慮し、日々の生活の中から教えてもらう場面や一緒に畑仕事をしたり、作品作り等の手作業など行なっている。生活歴から個人でできる役割を持ち活躍の場を作ったり、レクリエーションや歌など好きなことで楽しんで頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理から面会制限となっているが、家族関係が維持できるように電話にて情報を共有し、適宜連絡や相談をするようにしている。また利用者が家族便りに家族への手紙を書いて送付したり、電話で話をすることや窓越しに顔を見れる機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理から面会ができない状態になっている。電話もしくは窓越しでの面会対応は出来るため、家族に馴染みの方への周知を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う仲間同士が同じテーブルになるようにしている。いい関係が維持できるようにしている。一緒にドライブに出掛けたり、レクリエーションや談話の場を作り利用者同士の関わりを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため退居されてからの面会に行く事は出来ていないが、電話での連絡を行ったり相談等による事で情報提供をしている。転居の際も家族の意見や本人の状態を考慮した対応を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度、利用者の希望を確認している。また、表情や行動、言動・会話から利用者の気持ちをくみ取るように心がけている。その中からなるべく本人の希望に添った暮らしができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面談で生活歴等を確認している。また、入居後も本人から聞いた話を家族に確認し生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを把握するよう努めている。また、出来る事、難しい事についても日々の気づきを記録し、職員間で情報を共有するようにしている。職員は毎日の申し送りや意見の交換で確認している。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月一回の職員会議の時にケアカンファレンスを行なっている。本人・家族にも介護計画作成時に意見を求め、本人、家族の希望に添った介護計画を作成している。設定期間でなくても随時、本人にあった内容の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルに日々の様子を本人の訴えや説明な・対応内容、対応後の反応など具体的に記録している。毎日申し送りを行い職員は情報を共有し、よりよいケアの方法の意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者、家族の希望や状況に応じて柔軟な対応を心がけている。本人の希望に添い、「どこかに行きたい」「仕事をしたい」などをケアプランに取り入れ希望が叶うように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理から地域の方たちとの交流やボランティアに来ていただくことなどできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際にかかりつけ医は家族と相談し決めている。日々の観察から不調、体調変化時は早期に受診している。受診時は家族へ報告している。家族対応にて受診して頂く際には本人の状況を報告し、医師に伝え伝えて頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師を配置し、利用者の健康状態や状況に応じた受診対応など随時行い、支援を行なっている。昨年7月より訪問看護サービスを契約し医師との間に入っていたり医療支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師や看護師に詳しい情報を提供している。入院期間中の情報は新型コロナの影響での予防・リスク管理により様子を見に行く事が出来ず、電話で情報を得るようにしている。退院時にも詳しい情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医、看護師、家族と話し合いを十分に持ち、家族や本人の希望を確認し、その内容を職員と共有し、支援できることを検討することで今後の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに基づいた勉強会や訓練を定期的に行なっている。また事故や急変が起こった時の状況や対応の内容等共有し、想定する機会も持ち、急変時の対応がとれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルに基づいた研修や訓練を定期的に行なっている。避難訓練も実施しているが、新型コロナの関係により消防署職員や地域の方に訓練内容を見ていただくことは出来なかった。災害発生に備えて準備物の用意や物品の期限の確認を随時行なっている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員会議の時に勉強会を行なっている。具体的にプライバシーの侵害になる事はないか検討している。声掛けやケアにも配慮しながらケアを行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で希望を聞くようにしている。自己決定しやすいような声掛けを行なっている。レクリエーションへの参加や作業を行なう時など、日常生活の中でなるべく多く自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の生活リズムを優先するように職員会議の時に話し合いをする機会を設けている。利用者のペースを大切に、したい事・したくない事等、希望・要望の声に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の希望に添って毛染めや化粧ができるようにしている。毎朝、洋服を選ぶ時も利用者の希望を聞きながらケアを行なっている。理美容の時期も利用者・家族と相談し行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に食事作りや盛り付けを行なっている。利用者が食べたい食事がある時はその日の食事に取り入れるようにしている。また、外食や宅配なども利用者の希望に添って決めている。行事の時には普段より豪華な食事にもすることもあり、食事を楽しんで頂く支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの食事量、水分量を把握し、それに合わせた量の提供を行っている。利用者の状態に合わせ必要であれば刻み食やトロミをつけ安全に食べることができるように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行ない、本人ができるところまではして頂き、仕上げ磨きやうがい等の声掛けをしている。義歯の管理も行っている。必要な方には訪問歯科による口腔ケア、治療を受けてもらい指導や助言をもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、声掛けを行いトイレでの排泄が保てるように支援している。一人介助での誘導が難しい場合には二人介助での誘導するなど、可能な限りトイレでの排泄をして頂くようしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日排便の確認を行なっている。日々の食事や適度な運動を心がけている。主治医や看護師との連携も図り薬の調整等、自然排便ができるよう便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日・時間帯等は決める事なく、声掛けを行っている。洗身・洗髪や入浴時間の長短等利用者のペースや希望に添って支援を行っている。羞恥心にも配慮し、異性対応が難しい場合には職員が変わるなど対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	安眠できるように環境整備して いる。夜間に目が覚めても職員 と一緒にテレビを観たり、温か い飲み物提供したり、希望があ れば夜食を食べていたりしてい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	職員は利用者の薬の内容を把握 している。服薬確認は必ず3回 行ない服薬ミスがないようにし ている。新たな薬が処方された 時には薬剤師に効果、副作用 などを指導してもらい職員は薬 について理解し利用者に内服し てもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	利用者の力に合わせて調理手 伝いや洗濯物たたみなどをして いただいている。楽しみとされ ている事や嗜好品についても本 人、家族から話を聞き、畑仕 事や歌番組を見るなど本人の 希望に添えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。	新型コロナの影響での予防・ リスク管理により外出や散歩 はあまり実施出来ない。ホーム の駐車場やホーム周りほどの 散歩と、消毒等予防の徹底と 車中から出ない条件でドライ ブを行なうほどだった。外出 は難しくなっているが、中庭 や駐車場でひなたぼっこを行 うなど外気を浴びる機会を作 っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	入居の際に金銭の管理について 家族と話し合い管理方法を決 めている。一部の利用者は金 銭を持ち、購入されている。 金銭を持っている方は出納帳 をつけ管理している。本人管 理が難しい場合でも希望があ れば立替にて好きな物が購入 できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があった際は家族へ電話をかけたり、家族から電話があった際には本人と変わり話をする機会を作っている。手紙月に一度送お便りには本人に想いを書いて頂くこともしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾り付けを行ない、生活感や季節感を感じて過ごせるよう行っている。新型コロナの影響での予防・リスク管理からテーブルに置いている衝立にも好きな物の絵や写真など落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者がくつろげるような家具の配置にしている。施設内だけでなく、中庭や駐車場にも椅子を配置し、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は今まで使用していた馴染みの物をなるべく持ってきていただくようにしている。家族の写真や花など好きな物を飾られ居室でもくつろげるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に応じた環境整備を行っている。トイレや居室などに目印をつけている。利用者の状況が変化した時はそれに合わせて環境整備を行ないなるべく自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目(亀山②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・亀山

作成日 令和3年11月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	コロナ禍で希望に添った外出支援ができていない。	限られた環境の中で外出に向けた楽しみが出来るようになる。	下車しないことや密にならない等、予防対策を実施し、ドライブに出掛ける。	1年
2	〃	〃	〃	旅行番組やグルメ番組などを鑑賞し、目で楽しむ工夫をする。	1年
3	〃	〃	〃	外の景色を見たり、ホーム内で季節を感じる飾りつけの工夫。	1年
4	〃	〃	〃	畑作業や収穫した野菜からも季節感を感じて頂き、見て食べて楽しんで頂く。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。